

伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和5年9月27日（水曜日）
午後2時30分～午後4時30分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室
- 3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委 員 村上 恵宏
委 員 沼田 芳美 委 員 遠山 泰範
委 員 辻 恵
- 4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生
幼児教育課長 鈴木 慎一
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠
主幹兼指導主事 神山 健太郎 主事 松岡 翔太
- 6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会9月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、教育長報告を行う。9月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

8月22日 市立幼稚園教育講演会、文化財センター訪問（防災関係展示）

23日 校長会、少年サッカー大会閉会式、
令和6年「二十歳式」実行委員会

25日 市長答弁調整

26日 こども絵画大会「世界の名画を描こう」表彰式

28日 議会（大綱質疑）

29日 議会（大綱質疑）、南中水泳部・卓球部市長表敬訪問

- 30日 議会（議案審議）
- 31日 議会福祉文教委員会、退職者辞令交付式（保育士）
- 9月 1日 旧旭小学校施設訪問
- 3日 伊東市総合防災訓練（メイン会場北中学校）、
伊東市新生市民劇場「越前竹人形」
- 7日 政策会議、土地利用対策委員会
- 4日 静東教育事務所所長来庁
- 6日 市教育機関職員試験委員会、
県教委義務教育課室長来庁
- 7日 タウンミーティング（新井）
- 8日 議会最終日
- 10日 伊東おやこ0歳～3歳ポロン劇場
- 11日 政策会議
- 12日 タウンミーティング（松原）
- 13日 静東教育事務所八幡野幼稚園訪問
- 14日 八幡野幼稚園給食視察、小学校ボクシング全国優勝者報告
- 15日 静岡大学教育学部教授（田宮氏）来庁
- 16日 第48回JC旗争奪ジュニアサッカー大会
- 19日 タウンミーティング（赤沢）
- 21日 市職員10月人事異動内示
- 22日 東部社会教育振興協議会懇談会
- 24日 全国公募千字文大会表彰式（書道学院）
- 25日 政策会議、市議会議員当選証交付式
- 26日 タウンミーティング（小室）、ロータリークラブ寄贈式

27日 教育委員会定例会、市長と教育委員との懇談会

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に、各委員からの報告をお願いします。

(報告なし)

高橋教育長：次に、議題に入る。始めに、議決事項、教選第2号「伊東市文化財保護審議会委員の委嘱について」を議題とする。

(**浜野教育部長**から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：皆さんでなくていいが、年齢はどの程度の方になるか。

浜野教育部長：個々の年齢は持ち合わせていないが、一番若い委員で50代、上の方では70代の方になる。

高橋教育長：その他、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：それでは、この件について確認する。教選第2号「伊東市文化財保護審議会委員の委嘱について」は、原案どおり承認してよろしいか。

(異議なし)

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教選第2号については原案どおり決定した。以上で議決事項を終了する。次に、報告事項に入る。教報第8号「旅館業許可申請に係る意見について」を議題とする。

(**事務局**から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、「各課報告について」を議題

とする。

浜野教育部長：それでは、私の方から市議会 9 月定例会の議案について、説明をさせていただきます。

（**浜野教育部長**から資料に沿って説明）

杉山次長兼教育総務課長：教育総務課から 2 点報告する。1 点目は、幼稚園の教育機関職員採用試験について、8 月 26 日に二次試験を実施し、試験委員会で判断した結果、1 名を合格とした。9 月 30 日に三次試験を実施し、ここで合格となれば、採用となる。今回、応募人数が少なかったことから、10 月中旬から二次募集を実施したいと考えている。具体的な日程等は、試験委員会で決定し、お知らせするが、次回定例会では募集が始まっている可能性があるもので、何らかの形で報告したい。2 点目は、令和 5 年伊東小学校スクールバスアンケートをお配りさせていただいている。7 月後半に、スクールバスと統合についてのアンケートを、ウェブ形式で実施した。

（**杉山次長兼教育総務課長**から資料に沿って説明）

事務局：教育指導課長が欠席のため、事務局から生徒指導について報告する。まず、問題行動については、小学校で特定の児童が教室にいられず飛び出してしまうケースや、周囲への児童に粗暴行為を働くケースが見られた。中学校では、家で保護者と言い争いになり、家をそのまま飛び出してしまう、登校途中に家へ帰ってしまうケースが見られた。また、マッチングアプリで年齢を偽り、見知らぬ人と連絡を取るケースが報告されている。続いて、いじめについて、全国的にも様々な報道がなされており、伊東市でも報告件数が増えているが、ひどくなってから見つかるいじめに加えて、児童生徒の訴えや些細なトラブルをいじめとして捉えるケースが増えてきていることが起因である。ただ、いじめの重大事態に関して、全国的に年々増えているので、今後こういった事態が

起きないように、些細ないじめも見逃さず対応することを各学校に通知している。最後に、不登校について報告する。小学校に関して、不登校数は昨年度よりも少ないが、不登校相当、準不登校の児童が昨年度よりも増えている。2学期は、様々な行事があり、学校全体が忙しい雰囲気の中、不登校生徒にとって通いづらい状況が続くと思われるので、別室登校や各学級でのきめ細かい指導について、学校に指導している。

鈴木幼児教育課長：幼児教育課から4点報告させていただく。まず1点目は、八幡野幼稚園での給食について、先ほど教育長報告にもあったとおり、無事に八幡野幼稚園での給食が始まり、9月14日には、市長、岸副市長など、市幹部が視察を行った。私も教育総務課で親子給食や給食センターについて関わってきたが、今回の幼稚園給食が一番トラブルなく、円滑に実施できたと考えている。園側の協力、学校側の協力もあり、子どもたちが喜んで美味しそうに食べている状況を見ることが出来て、本当に良かったと思っている。八幡野小学校と給食調理を一緒に行っているが、一部のメニューは変更している。メニューによっては喉を詰まらせてしまう可能性があり、また、幼稚園児には食べづらい食材の処理を変え、食べることに専念できるよう整えている。学校の栄養士と幼稚園の栄養士が話し合いながら、献立を考えている。また、初回の給食にもずくスープが出たが、子どもたちがもずくを何か知らず、先生方に尋ねてきたそうだ。そこで、もずくがどのようなものか、もずくの加工はどうやっているのかなど、「もずくダンス」というダンスとして学習をした。そのような形で、子どもたちに関心を持ってもらい、給食に導入していた。中々、学校では難しいが、幼稚園らしい柔軟な、遊びの中の食育という観点で、食に関心を持ちながら給食を食べるという環境が整ったのかなというところがあった。保護者に対しては、園でアンケートを実施し、その中で頂いた意見として、朝の

弁当作りがなくなり、心の余裕が生まれた、とか、時間内に食べる練習をしてくれてありがたい、とか、偏食気味が改善した、八幡野小学校に通うきょうだいたいと同じ献立なので、家の中でも話題になる、という意見が寄せられた。9月20日に幼稚園と学校の関係者で反省会を実施したが、特段大きな問題は出されなかった。また、9月7日から台風が近づき、翌8日には警報が出るのではないか、という日があった。幼稚園の他の園は、8日金曜日がデリバリー給食の日で、お弁当が届く段取りになっていたが、警報で休園になった場合、お弁当が無駄になってしまうことから、7日木曜日の時点でデリバリー給食は翌週に持ち越しという対応を決定した。結局、8日は通常の登園となったが、八幡野幼稚園については、市内の幼稚園で唯一、給食を提供することができた。やはり自園での給食は強いなという感想を持った。今回の八幡野幼稚園での実施状況を見ながら、来年度以降、他園での拡大を考えていきたい。1点目の報告は以上になる。2点目からは、アンケート関係が3点続く。まず、年に一度実施している保育園保護者アンケートについて、報告させていただく。

(鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明)

公立私立とさまざまな保育の内容に違いがあり、不適切保育等、保護者の目が厳しいところもあるが、93.3%の方が今の保育内容に満足しているということであれば、引き続き、質を高めながら、保育を提供していきたいと考えている。多様な保育への取り組み等であるが、課題等を考えながら、引き続き保育サービスの向上を図っていきたい。続いて3点目は、幼稚園の教育アンケートについて、報告する。

(鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明)

最後に4点目として、幼稚園預かり保育利用アンケートについて、報告する。

(鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明)

令和5年度から利用しやすくなったということは数字として表れていると思う。幼稚園の先生方が日々の幼児教育の一環の中で工夫し、預かり保育を提供しており、その影響が保護者の方にも感じていただいていると思う。今回の結果と夏休みの実績を踏まえ、公立幼稚園の預かり保育が、就労する保護者を中心とした、多様な保護者ニーズに応えた体制となっていると考えている。保育においても、満足度の高い内容だと考えている。預かり保育の重要性を考え、今後ともさらなる充実を図っていきたい。

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：教育総務課も幼児教育課も、アンケートやデータが取りやすくなり、いろいろなことが分かるようになって良かったと思う。その中で、幼児教育課については、皆さんから良いと評価される結果だったが、教育総務課のスクールバスのアンケートは、いろいろな意見が出ていた。今後、改善しなければいけないという意見も出ていたかと思うが、具体的にどの部分を改善して、いつごろ実施する予定かなど決まっているのか。

杉山次長兼教育総務課長：まず、このアンケート結果を見たときに、個人的には賛同意見が多いと感じた。細かいところを言うと、統合地域協議会の初期に出た意見と、中期後期に出た意見を混同した意見も見受けられる。最終的にはここまでしかできないという説明が浸透しきれていない部分があった。また、学校の日課との調整については、全ての日課にスクールバスの状況を合わせる事が不可能な状況なので、相互の歩み寄りを来年に向けて実施していきたい。評価については、今回で終わりにするか、あるいはもう1回実施するか思案している。いずれにしても、この検証をしていかないと次へは進まないと考えている。

委員：教育指導課の報告に、マッチングアプリに関する報告があったが、これ

はどういった経緯で発覚したのか。

事務局：このケースは、家庭ではなく、施設の職員が発見したケースで、実際に会うことはなく、そういったことがあったと学校に報告があった。施設と連絡を取り合いながら指導を行った。

委員：少なからず、同様ケースは他の学校でもあるのではないかと。SNSの使い方はいつも問題になる。大きな事件、事故にならなければいいと思う。その辺、携帯電話の使い方、その怖さについて学習する講座は、コロナ禍でやっていなかったと思うが、是非やってほしい。

事務局：学校毎に指導を行っているが、企業に講師を依頼し、来てもらっている。あとは学校の授業の中、情報教育という形で実施している。教育指導課としても、外部講師を紹介しながら、機会を設けていきたいと考えている。学校と家庭で協力してやっていきたい。

委員：次回定例会で報告があると思うが、夏休みが明けて、どうしても学校に行きづらくなる児童生徒が間違いなく増えると思う。既にそういった報告は上がってきているのか。

事務局：具体的な数字はこれから学校から上がってくるが、話の中では出てきている。以前と比べると、別室登校や校内で安心できる居場所など、少しずつ学校で増やしており、学校に全く触れないという状況をなくしていこうと話し、情報交換等を行っている。

委員：本当に一番良くないことだが、子どもの自殺が増えるのが、夏休み明けになる。心のケアは学校だけだと厳しいと思う。先生方の業務も多い中、スクールカウンセラーなどのいろいろな人の手を借りながら、そういった子のケアができればいいと思う。

高橋教育長：携帯電話の使用方法的学習について、どの程度やれているかとい

う質問だと思うので、各学校の程度について調べて、定例会の中で報告したい。

委員：付随して、今、高校では、インスタグラムに写真でも動画でもなんでも上げてしまっていて、問題になっている。悪いことではないと思っているようで、人を傷つけていることを分かっていない。今、中学生もほとんど携帯電話を持っており、小学生でも持っているかと思う。

高橋教育長：貴重な意見だと思うので、家庭でもやっているかと思うが、学校としてどの程度やっているのか調べて、またデータでお出ししたい。

高橋教育長：他に意見・質問はあるか。

委員：スクールバスのアンケートも幼稚園給食のアンケートも、それぞれ丁寧にやって、そこからの読み取りもしてくださっていると思う。まず、八幡野幼稚園の給食についてだが、伊豆新聞の記事の前に、CVAでも拝見させていただいた。市長や教育長が子どもたちと一緒に給食を食べていた。楽しそうに食べている子もいたが、初めての取り組みの中で、食べにくそうに感じている子どもの様子も映っていた。そういった子どもへの配慮、保護者はすごく嬉しいと思うが、子どもたちへの配慮を見逃さないように進めて欲しい。当日はピラフご飯をスプーンで食べている様子が映ったが、スプーンと箸の使い分けなども、気をつけながら見てほしい。食べにくいからスプーンを使っているのだと思うが、箸の使い方もある。献立によって異なるかと思うが、何か見逃してしまいそうな雰囲気を感じたので、細かく見てほしいと思った。次に、幼稚園保育園のアンケートについて、項目も年によって見直しているかと思うが、毎年同じ項目であるとマンネリ化すると思うので、今後見直しをしながら行ってほしい。9月初めに岡山県で、おばあさんが2歳の子を車から降ろし忘れてしまい、熱中症で亡くなる事故があった。通っている保育園で登園を確認するルールが徹底されていないという報道もあった。先生の不足は理由にならない

と思う。園のアンケートについて、保護者に対するアンケートと同時に、園側へのアンケート、自分たちの反省をしっかりと持って対応していただきたい。

鈴木幼児教育課長：委員ご指摘の給食について、私どもが行った際は、知らない大人がたくさん来て、カメラもあるという状況で子どもも緊張していたのかと思う。初日に行った際は、初回ということもあり、すごく楽しくそうにやっていた。委員ご指摘するような先生方の指導についても、幼稚園に専属の栄養士がおり、学校で行っている食指導のような指導のプロであるから、栄養士を中心に食指導が充実する体制を作っていきたい。次のアンケートに関しても、項目の見直しは随時行っていきたい。引き続き園長会等で頂いた意見をフィードバックしながら、新しい視点と継続して見る視点をうまくしながら、やっていきたい。

委員：預かり保育のアンケートを見て、ずいぶんと浸透してきたということを感じた。保護者が上手に活用していると思いました。子どもたちが喜んでいるというのは、預かり保育の自由感にも要因があると思う。学年の異なる園児がみんな一緒におり、好きな遊びを選んでもできるという自由感から、楽しくやっているのだろうと想像した。時間が長くなることで、職員配置が大変になるのかと思うが、そういった点はどうなっているのか。

鈴木幼児教育課長：私が重点的にやりたいと思った点はご指摘の部分で、預かり保育は職員2名以上配置、かつ1名は必ず保育士または幼稚園教諭という基準で、令和3年度は会計年度の有資格者2名という体制だったが、安全性、預けることへの安心感という観点から、正規の先生を1名担当として配置し、実施している。それが回せるのかというと、職員の採用、退職といった観点から、今後の課題かと思うので、そこは何とか対応していきたい。

委員：アンケートはデータとして見ることができ、すごいと思う。特に幼児

教育課の結果は、満足度 8 割 9 割という伊東市として P R に繋がる数字だと思う。そこをうまく活用していただきたい。スクールバスもいろいろとご苦労いただいたおかげで、運営も大きな問題なく行えている。自由記述の細かい意見も、皆さんの意識の高さの表れだと思う。できれば、この要望の中で対応が可能なもの、検討できるもの、難しいもの、フィードバックいただいた意見に対して、市としての回答があると、アンケートに協力してくださった方の意見が次に繋がっていくのかと思う。

鈴木幼児教育課長：今回の預かり保育のアンケートについては、来年度の入園申し込みが 10 月から始まるにあたり、パートで保育園を検討している方が、預かり保育の利用で対応できるということを、もっと浸透させるために報道出しをしていきたい。幼稚園を選択する保護者が増えることで、保育園の待機児童の解消に繋がればと思う。幼稚園への応募が減少傾向であるが、給食や預かり保育をアピールして、増やしていきたい。

杉山次長兼教育総務課長：頂いた意見の中で、意見を出したのに何も動きがないという意見がいくつかありました。このデータをそのまますべてオープンにすることは、記名式のため難しいが、改善点等を報告できるようにしていきたい。

委員：教員の働き方改革という内容のニュースで、東京都の小学校で夏休みの宿題をなしにしたというニュースがあった。教師の負担軽減と、子どもの自主性を育てるということだ。先生が子どもたちの前で、今年の夏休みの宿題はありません、ときっぱり言って始まり、インタビューを受けた子が、どのようにして過ごしたか問われて、漢字ドリルをやったと答えていた。私個人の意見、感想だが、夏休みは暑くて効率も上がらない季節なので、メリハリをつける意味でも、開放感という意味でも、宿題ゼロでもいいのではないかと思った。保

護者にしてみれば、子どもたちに与えられた目的がなくて困るという意見もあるかもしれない。生活習慣が乱れないようにという意味もあるかもしれないが、結局最後にまとめてやるような姿をよく見る。慣例で行っている場合もあるので、すべてを一度見直して、本当に必要なものを考え直すことも大事だと思う。

委員：保護者としては面白いかなと思いつつ、ある程度枠がなければ、1日漫画を読んで終わってしまう気がする。そういったことも含めて、広い心でやってみることもありかと思うが、賛否が分かれそう。確かに親としては、宿題があったほうが指導しやすいということも実際にあると思う。家庭ごとの考え方の差、個人個人の子どもの伸びが一人一人違うので、聞いていて難しいなと思った。

高橋教育長：貴重な発想だと思う。夏休みをどう過ごすかということは、子どもにとっては大きいことだと思う。個人的には、伊東に住んでいる子は、せっかく伊東に住んでいるのだから、都会にはない、自然や素晴らしい文化的な財産にしっかりと触れてほしい。夏休みを有効に、本物に触れて育ってほしいと強く思う。都会では宿題をなくしても、塾に通っているのではないかと。学校は宿題を無くしましたといっても、実態は違うのではないかと。40日近い夏休みという期間を、伊東の子どもは、伊東でしかできないことを体験してほしい。その一つにふるさと教室という事業も行っている。教育指導課でも宿題については検討するかもしれない。

委員：今は宿題も大分減らしたようだ。

高橋教育長：縮減はしていると思うが、ゼロというわけにはいかないと学校では考えているのではないかと。

委員：今の教育長の話に関して、今年はすごく海の事故について見聞きするが、最近の子に聞くと、海に入ったことがないという子がおり、びっくりした。保

護者が仕事をされて、忙しく時間がないなどの理由もあるかもしれないが、それでも自分のときと違うと思う。おっしゃったとおり、海あり山あり湖ありの恵まれた環境だと思う。観光資源であるが、教育資源でもあると思う。

高橋教育長：おっしゃるとおりで、正確な調査ではないが、宇佐美の子にアンケートをとったことがあり、川に入ったことがない子が3分の2ほどだった。海も入ったことがない子が多くいるのではないか。これらのことは宇佐美の区長さんもびっくりしていた。意外と伊東の子は、海で遊んだり、川で遊んだり、自然に触れている雰囲気があるが、実際は少なくなっているのではないか。伊東の良さがわからないという子も増えそうだ。

委員：各課報告とは少し関係がないかもしれないが、ニュースで見て、面白いなと思ったのが、別府市で「たびスタ休暇」という事業をやっているらしいです。別府市は観光が盛んで、土日が仕事という家庭が多い。そうすると、家族で泊まりに行こうと言うと学校を休ませなければならない。そこで、市では年度内3日間、5日前までに計画書類を提出すると、休みの扱いにならない、家族で旅行に行けるという制度とのことだ。先ほどの話に付随して、いろいろといいこともあって、外を見ることで逆輸入的に地元の良さがわかるということもあり、旅をすることはものすごい学びの時間になる。もちろん家族との時間ということもあり、発達、コミュニケーション能力等々、世界が広がると思う。また、土日に旅行をするより、経済的な負担も小さくなる。地域社会や企業にとっても閑散期が均されていくなど、いい面がたくさんあると思う。伊東市も似た環境だと思うので、土日に仕事が忙しい家庭に、市として後押しができる事業だと思うので、参考にさせていただければありがたい。

委員：旭小学校の活用については伺ったが、西小学校については、何か計画や方向性が決まっているのか。

杉山次長兼教育総務課長：現在、所管をしているが、いずれは資産経営課の管理、活用になるのかと思う。今のところ、具体的な計画は定まっていないが、図書館の計画時に、西小学校地が文化ホールに望ましいのではないかと、という意見を頂いている。

委員：市民の方、何人かから聞かれたので、あれだけの施設をどうするか、皆さん気になっているのだと思う。今の状況だけでも、何かの機会にお知らせできれば、安心なのかと思う。

杉山次長兼教育総務課長：今月いっぱい、まだ特別支援学校が荷物の整理を行っており、引き渡しの期間としている。今、引き渡し期間を延長してほしいという依頼が来ているので、もう少し特別支援学校のものが残っている。それが終わり次第、市で全体を管理する形になる。

高橋教育長：今後落ち着いたら、また説明をしたいと思います。別府市の件も、また研究させてもらいたい。自分もいいなと思いました。

委員：私もニュースで見ました。すごくいいなと思いました。

高橋教育長：各課がいろいろなデータを作って、定例会に出していただき、大変分かりやすい。時間がかかって、大変な作業だと思うが、本当にありがたい。

事務局：お手元にあります伊東市教育委員会自己点検評価報告書について、令和4年度の評価を進めていければと考えている。方式については、令和3年度の点検評価報告書と同様に、各課で評価をまとめたものを、定例会で諮らせていただくことを考えている。

高橋教育長：その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

事務局：10月の定例会については、10月24日（火曜日）午後2時30分を予定している。11月の定例会については、11月21日（火曜日）を予定

とする。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会 9 月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委 員 村上 恵宏

書 記 松岡 翔太